

## 計評分科会における新たな仕組みの方向性(案)

資料3  
科学技術・学術審議会  
研究計画・評価分科会  
(第73回) R2.7.16文部科学省科学技術・学術政策局  
企画評価課

## 1. 見直しの背景

研究開発計画の形骸化、中目標単位で研究開発課題を束ねた研究開発プログラム作成の困難性、次期科学技術・イノベーション基本計画の検討が進捗していること等を踏まえ、研究計画・評価分科会における審議の在り方と新たな仕組みについて検討を行うことが適当ではないか。

## 2. 新たな仕組み(案)の概要

次期（令和3年度以降）より現行の研究開発計画を廃止し、各分野において重点的・戦略的に推進すべき研究開発の取組や推進方策を定めるための「文部科学省〇〇分野における研究開発戦略・計画（仮称）」（以下、「分野別戦略・計画」という。）と、分野別戦略・計画に基づいて分野全体を客観的なエビデンスとして俯瞰・把握し、「戦略・計画」の改訂や見直しに活用できるようにするとともに、エビデンスに基づいてプログラム評価を行う基盤となる「文部科学省〇〇分野における研究開発プログラム」（以下、「分野別プログラム」という。）を策定してはどうか。

## 3. 「分野別戦略・計画」とは

- 各分野における固有の特性・事情等に応じた策定を可能としてはどうか。  
例えば、分野別委員会や内閣官房等において政府全体を対象として別途検討・策定している戦略・計画※を引用・活用できることとする又はそれをもって代えることが可能な仕組みとするとともに、分野を俯瞰する戦略・計画として最低限のポイントを記載した文書を分野別委員会でまとめるべきではないか。 ※ 科学技術・イノベーション基本計画、健康・医療戦略及び医療分野研究開発推進計画、AI戦略、バイオ戦略、量子技術イノベーション戦略 等
- 分野別戦略・計画に最低限盛り込まれるべき要素については、①各分野における研究開発推進の必要性、重点的・戦略的に取り組むべき研究開発領域やそれに基づく計画、②各分野に共通する横断的事項、の2点を基本とすることが適当ではないか。

## 4. 「分野別プログラム」とは

- 分野別戦略・計画と整合する形で、分野全体を客観的かつエビデンスに基づいて俯瞰・把握でき、これによって、分野別戦略・計画等の進捗状況の把握や見直し・改訂のための材料となることと、エビデンスに基づいたプログラム評価にも資するものであることを明確にし、まさに文部科学省におけるEBPMの推進の基盤であると位置づけてはどうか。
- 分野別プログラムの評価の視点は、研究開発課題に関しては、課題や事業のアカウントビリティやメリハリを意識した評価（evaluation（有用性に主眼があって、成果や結果に伴った評価）やrating（格付、メリハリ））の視点が強いことに対して、分野別プログラムに関しては、プログラム全体を俯瞰して、それを構成する研究開発課題間の関係性の把握やプログラム全体に対する気づきや改善点を得るといった、分野別委員会やその事務局の組織学習につなげるための評価（assessment）の視点が強いものとして、評価の違いを明確化してはどうか。

## 5. 今後の取組

- 次期科学技術・イノベーション基本計画の内容や、次期大綱的指針の改訂内容等を踏まえ、引き続き適切な仕組みの在り方を検討・議論する必要。
- 分野別プログラムの策定・活用や評価は、負担軽減、評価の屋上屋排除、評価スキル・ノウハウの習得獲得や、評価担当者のリテラシー向上など課題が多いため、引き続き、分科会事務局及び分野別委員会を支援する様々な工夫や取組を充実させる必要。